

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530032		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	グループホームすみれ・梨の木 A棟		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町字梨木西44-1		
自己評価作成日	平成27年2月19日	評価結果市町村受理日	平成27年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中で安心して生活出来る様支援している。出来る限りお一人お一人の要望が実現出来る様に、職員一同情報を交換し、話し合い介護を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 開設5年目の事業所であり、設立時からの職員も多い。当初は介護職としての経験がなかった職員も現在は管理者はじめベテランの職員の指導により、これまで複数の職員がケアマネージャーや介護福祉士の資格を取得している。また、法人では資格取得者に対して優遇措置もあり、職員の働く意欲につながっている。
2. 事業所は小規模多機能型居宅介護事業所と隣接しており、事業運営や利用者への支援及び行事等を合同で実施しており、連携体制が確立されている。利用者同士も日常的に交流があり、和やかで温かい雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心出来る環境で、自立を支援する理念を作り実践している	理念は「笑顔あふれる寄り添う介護」「地域の人々との楽しい交流」等端的な言葉で表されており、月例の全体会議等で毎回唱和し、理念の意義を全職員で確認して、利用者本位のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々に慰問して頂き交流している	町内会に加入し、事業所行事(夏祭り、芋煮会等)には家族と共に地域ボランティアの参加がある。また、事業所ではボランティア(民謡・そば打ち・腹話術・フラダンス・歌謡等)を数多く受け入れており日常的に交流している。さらに中学生の職場体験は恒例となり利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の場を設けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用状況や内容を報告し、改善策など助言頂き、サービス向上に活かしている	運営推進会議は隣接する小規模多機能型居宅事業所と合同で定期的を開催しており、行政の職員は毎回参加している。内容は利用者の状況、行事、事故報告等について、詳細に報告されており、委員からの提言も多く事業所運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と積極的に情報交換を行っている	事業所開設時から運営推進会議には行政職員の参加があり、常に情報交換をしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で勉強会を実施して理解を深め、取り組んでいる	全職員がマニュアルの研修会を通して身体拘束の弊害を理解し、拘束のないケアを実践している。日中玄関の施錠はなく職員の見守りやセンサーにより対応している。「言葉の拘束」にも全職員が十分気を配り、意識を共有して日々のケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で勉強会を実施して理解を深め、注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する講習会に参加し、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者・家族からの苦情などに対し、話し合いの機会を設け運営に反映させている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声掛け等により、意見や要望を言える状況を作っている	家族の意向は面会時や状況報告等の機会を通して常に把握するよう努めている。把握した意向は毎日の「ミーティング」や「職員会議」等で話し合い、サービスの向上や事業所運営に反映させている。事業所の情報は「事業所だより」等を活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議を開催し、自由に意見を出せるようにしている	職員間の融和が図られており、職員は日頃から管理者に何でも話せる環境となっている。出された意見等は全職員で協議し、日々のケアや運営に反映させている。また、月例の職員全体会議でも運営改善等について職員の意見を聞く体制となっている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職場環境、条件の整備を心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の機会を活用して、スキルアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の研修等に参加したり交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人が不安や要望等を話し合える機会を設け、安心出来る関係作りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思っている事、要望等を気軽に言える関係作りにも努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族が安心出来る支援を話し合い、ケアプランを立て実施するよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気大切に、自立出来るよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の体調や状況を話し、共に本人を支えていく関係作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた方が気軽に来れるよう支援に努めています	訪問理容を受け入れているが、馴染みの美容院等の利用も支援している。利用者の友人や近所の方の訪問があり、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、隣接の事業所の利用者とは日常的に交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が安心して過ごせるよう気配りに努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人・ご家族の相談に応じ、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の希望を把握し、訴えかけの困難な方には必要に応じた支援を行う	利用者の支援には職員担当制となっており、全職員が些細なことでも把握できる体制となっている。利用者の表情や行動から、今望んでいること、やりたいこと等を把握し、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族にこれまでの生活環境等の情報を頂き、把握するよう努める		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や動作の変化に気付き、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の体調や状況を把握し、家族と話し合い介護計画を作成している	利用者の現状把握を十分行い利用者本位の介護計画を作成している。担当職員を中心に個別記録・申し送り書等をもとにサービス担当者会議を開催し、利用者の状況を詳細に出し合い課題解決に向けて話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づきを記入し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に合わせ、心配や不安のないよう、柔軟な支援を出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望に応じ、近くの商店に同行し、安心して頂けるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にスタッフ同行で受診し、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援しており、受診には家族対応が原則であるが、緊急時や利用者の状況によっては職員の同行もある。受診結果は相互に連絡しあい情報の共有をしている。また、協力医療機関や法人の医療機関からの往診を受け入れている。受診結果は家族と相互に情報の交換をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で、体調の変化を見逃がさず、気付いた事を伝え、適切な受診を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の状況・状態の情報を提供し、退院時は病院より情報を頂き対応するよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の身体状況の変化に対し、家族と話し合い、関係者と共に支援に取り組んでいる	事業所として「重度化・看取りに関する指針」を作成しており、終末期のケアにあたっては全職員が方針を共有してターミナルケアを実践している。重度化した場合には家族、医師、職員等で十分話し合い家族の意向に沿って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを含め、勉強会を行い、実践出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の専門職の方々に来て頂き、訓練を実施したり、職員と入居者が共に災害等の避難訓練を実施している	消防署立会いの総合防災訓練は隣接する事業所と合同で実施しており、日頃より協力体制が確立されている。事業所独自では通報訓練・夜間想定・伝達訓練等を実施している。また、豪雨・豪雪、火山噴火等の対応についても話し合っている。非常用食品等は備蓄している。	災害時に全職員が利用者を安全確実に避難誘導できるよう数多く訓練を重ねることが望まれる。訓練実施後は実施記録を作成し、反省点や問題点を明確にしておくことが必要と思われる。あらゆる災害を想定して、事業所としての初期対応について検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、失礼の無いような声掛けを大切にしている	職員は利用者一人ひとりの個性を大切に声掛け等に配慮しており、利用者との信頼関係のもと日々のケアにあたっている。個人情報やプライバシー保護についても研修会を通して全職員が周知し、徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に遠慮なく話して頂けるよう声掛けし、寄り添っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分らしい生活のリズムに沿って過ごして頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を受け、身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事のメニューの希望を聞いたり、下ごしらえして頂いたり、一緒に楽しい食事になるよう支援している	献立は職員が利用者の希望を聞きながら、季節感のある食事を提供している。利用者の状態によっておかゆや刻み食にも対応している。行事食は誕生会など数多く実施しており、外食も楽しんでいる。ボランティアの手打ちそばも人気となっており、常に食事が楽しいものとなるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記入し、摂取量の確認をしたり、ミキサー食や刻み食と、その人に合わせた対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの声掛けを行い、本人の力に応じた介助を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツの使用を減らせるよう誘導しています	排泄パターン表を利用し、全職員が利用者のサインを読み取るように努め、自然排泄の支援をしている。リハビリパンツやパット等の使用も利用者一人ひとりにあったものを提供できるよう全職員で話し合い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にヨーグルト(バナナ入)を提供し、飲食物の工夫等、出来る事を実施しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添えるよう、ゆったりとした入浴に努めている	入浴は利用者の希望に応じて支援している。利用者の状況によってはシャワー浴、足浴、清拭で対応している。入浴拒否者には担当者や時間等を変えて気分転換を図りながら気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせ、安心できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を把握して服薬介助し、身体の変化も見逃さないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴・好みを把握して気分転換を図りながら楽しく暮らせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望に沿って、買い物や散歩に出掛けられるよう支援している	五ヶ月ほど雪に閉ざされる地域であるため、好天時には散歩や徒歩での買い物等は日常的に支援している。さらに事業所として外出支援(花見・ドライブ・釣堀・紅葉狩り・公園散歩・紫陽花祭り見学等)を数多く計画し実践しており、利用者は季節の変化を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況に応じ対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、自ら電話を掛けたり出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけを行い、安心して過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、テーブル、椅子が配置され、畳のスペースやソファがあり、利用者は自由に寛げるようになっている。壁には利用者が制作した季節感あふれる作品や事業所行事の写真が飾られており、温かい雰囲気の良い居心地の良い空間となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてテレビを観たり、気の合った入居者同士で自由に談話したり、楽しく過ごせるような居場所を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	思い出の品や、馴染みの物を置いたり、居心地良く過ごせる居室となるよう配慮している	居室は電動ベッド・整理箆筒・空調機器・換気扇及びナースコールが標準設置されている。利用者は使い慣れた家具やテレビ等を持ち込み、自宅と変わらない環境にして、安心して過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、安全・安心に生活出来るよう支援している		